

# まずは仕事を覚えること

## 建設業の未来を支える フレッシュWoman



ダン環境設備(株) 技術課

古米 菜々子さん

輝かせる。

仕事を進める上では説明を受ける必要がある「当たり前のことだが、わからぬことがあれば質問する」「ことを常に心がける」「私自身、人と話すことがあまり得意ではなないが、些細なことでも大管工事施工管理技士(1次試験)にもチャレンジ性があるため、ためらわずに確認する」ことに徹する。その結果、「聞いたことだけでなく、それ以上のごとも親切、丁寧には教えてもらっている」とほほ笑む。

「興味を持って仕事を続けられるかどうかが大ごと」だと話す古米さん。「私」は大学で文系科目を専攻。その分、不安や躊躇もあったが、すべては努力次第だと思っている。

「これまで携わった仕事では「発注者を対象にした施工方法の現場説明に立ち会ったこと」が特に印象深い。」現場事務中を押す。

【このまよ・なな】

2024年3月に県立

普段よく目にする工事現場。「身近な存在だった佐北区、檀上正敏社長)が、そこで何が行われているか」という知識が全くなかった。そこから建設業に興味を持ち始めた」と話すのは古米菜々子さん。そうした中で、インターシップに参加し、この4月に入社。技術課に配属され、現場事務

ダン環境設備(広島市安所)でサポート役として面の作成や工事写真の整理、簡単な書類づくりを担当する。図面が徐々に完成していく過程が面白いとし、それを繰り返すことで全体像が見えてくる。そのことにやりがいを感じている」と目を輝かせる。

「説明を受ける必要があるが、説明を受けなくても私に仕事を任せれば大丈夫だと思ってもらえるようになる」と語る。11月にある2級管工事施工管理技士(1次試験)にもチャレンジしたい」と付け加える。

「興味を持って仕事を続けられるかどうかが大ごと」だと話す古米さん。「私」は大学で文系科目を専攻。その分、不安や躊躇もあったが、すべては努力次第だと思っている。

「これまで携わった仕事では「発注者を対象にした施工方法の現場説明に立ち会ったこと」が特に印象深い。」現場事務中を押す。

【このまよ・なな】  
2024年3月に県立広島大学地域創生学部を卒業。信条は「何事も丁寧にやること」。休日はゲームなどでリフレッシュしている。01年5月生まれ。広島市出身。